

News Release



令和4年12月16日

各報道機関文教担当記者 殿

届け加賀れんこん！ ライブコマースで売れた加賀れんこんの発送に挑戦

このたび、金沢大学附属小学校4年児童、金沢市農産物ブランド協会、NTT西日本の3者が、【Project HESO】の一環として、ライブコマースで販売した加賀れんこんの発送作業を行います。

4年生児童は、加賀野菜についての調査を通し、加賀れんこんは県内での認知は高いものの、県外では十分に認知されていないことに気づき、前回は「食」のライブコマース「foove (※)」による加賀れんこんの販売に挑戦しました。今回は、児童達が購入者に宛てた手紙を添えて、加賀れんこんの発送に取り組みます。

※ NTTスマートコネクト株式会社による、こだわりの食材を動画で配信し、販売できるワンストップサービス <https://foove.jp/>

届け加賀れんこん！

ライブコマースで売れた加賀れんこんの発送に挑戦

- 実施日：12月19日（月）9：30～11：00
- 実施場所：JA金沢市加賀れんこん集出荷施設
（金沢市松寺町末59-1 JA金沢市本店敷地内）
- 参加者：附属小4年児童34名、金沢市農産物ブランド協会職員、NTT西日本職員
- 実施内容：児童がライブコマースで販売した加賀れんこんの発送に取り組みます。

つきましては、当日の取材・報道をお願いします。

取材の際は、12月19日（月）8：30までに別紙取材申し込みのFAXをお願いします。

【問い合わせ先】

金沢大学人間社会系事務部総務課附属学校事務係（担当：寺田）

TEL 076-226-2182 FAX 076-245-8630

e-mail: edfuzo1@adm.kanazawa-u.ac.jp（9：00～17：00）

別紙

取材を希望する場合は、本申込書を
12月19日（月）8：30までに
下記の宛先へ送付してください。

金沢大学
人間社会系事務部総務課附属学校事務係
FAX：076-245-8630

申込日：令和4年12月 日

届け加賀れんこん！

ライブコマースで売れた加賀れんこんの発送に挑戦

取材申込書

報道機関名： _____

取材記者名： _____ 様

連絡先： _____ (_____)

同行者（カメラマン等）： _____ 名（上記記者除く）

カメラ等の内訳（台数）： _____

（例）テレビカメラ 1台

日時：令和4年12月19日（月）9：30～11：00

実施場所：JA金沢市加賀れんこん集出荷施設

（金沢市松寺町末59-1 JA金沢市本店敷地内）

※新型コロナウイルス感染症対策のため、来場の際は、検温の上、マスクの着用
（鼻と口の両方を確実に覆うこと）および手指消毒の励行等にご協力ください。
また、取材記者・同行者数も最小人数でお願いします。

担当：金沢大学人間社会系事務部総務課附属学校事務係 寺田

TEL：076-226-2182 FAX：076-245-8630

MAIL：edfuzo1@adm.kanazawa-u.ac.jp

(目指すべき理想の姿)

VISION

KU5

学校を拠点に、 新たな価値を創造する

KU5（金沢大学附属5校園）が、地域社会と協働でプロジェクトに取り組みます。プロジェクト誕生の背景には、グローバル化やAIの普及によって今後も不確実性が高まる時代の流れがあります。子どもたちが、予測困難な未来をよりよく生き抜くためには、自ら課題を見つけ、学び、考える力 — さらにAIに頼ることなく自らの判断で行動し、道を切り拓いていく力が必要です。そういった力を、子どもたちの中心（HESO）に育むことを教育機関の使命ととらえ、コラボレーション推進室が学校と地域社会の架け橋となって探究学習＝プロジェクトHESO（へそ）を実行し、新たな価値を創造します。

1



身体や物の「中心」を表すのが「HESO（臍・へそ）」であることからプロジェクト名をプロジェクトHESOとしました。学校を起点としたプロジェクトを通じて、子どもたちの中心（HESO）に新たな力が宿り、成長してほしいという願いが込められています。丸いへそをイメージさせる「O」の文字は、多くの○や△、□で構成され、社会の垣根をなくしてさまざまな人や物が集うプロジェクトの多様性を表現しています。

2

(果たすべき使命)

MISSION

HESOを創る

社会イノベーション創造プログラムの実施

プロジェクトHESOの中心となるのが、年齢に応じた「社会イノベーション創造プログラム」の実施です。5校園に通う3歳から18歳の子どもたちが自ら発見し、感じた実社会の課題に対し、さまざまなパートナー（地域人材・行政機関・一般企業・大学研究室など）の協力を得ながら、解決へのロードマップを子ども自身が模索します。推進室はパートナーの新規開拓や連携調整を行い、子どもたちが主体的に考えて動く「考動体験」を促します。プログラムの進捗状況や実施効果については公開予定のWebサイトにて随時発信予定です。

先端技術・教育データ活用プロジェクト

教員が情報端末において専用のシステムを活用することで、学びを「見える化」。そこで得られた気づきやデータを教育の場の現場にフィードバックします。

3

(プロジェクト内外に約束する価値・行動基準)

VALUE

社会に誇れるストーリーの創造

外部パートナー・教員とともに次の時代の金沢を生み出す人づくり、これまでにない教育モデルの確立を目指します。プロジェクトには、誰もが自由に参加でき、互いの刺激を成長につながります。社会、そして未来に誇れる新しい物語を、私たちと一緒に創り出してください。

4